

お わ り に

生徒相互のかかわりによって柔軟な思考を育む授業づくりは、本校が3年計画で取り組んでいる研究テーマです。昨年度は、思考の基盤となる論理的思考力に焦点化したのに対して、2年目の本年度は、多面的な思考に焦点化して各教科等における授業づくりについて研究を進めて参りました。去る平成25年11月1日に開催した教育研究協議会では、本年度の研究成果の一端をお示したところです。

さて、本年度の教育研究協議会では、東京大学の三宅なほみ先生と同志社女子大学の黒孝文先生をお迎えし、協同学習に係る授業改善の視点等をテーマとしたシンポジウムを実施いたしました。知識構成型ジグソー法で実施した本校教諭による研究授業を題材とし、ビデオで授業中の生徒の活動や発言を提示しながらシンポジストが意見交換を行いました。また、参加者から回収した質問等に対してシンポジストが回答する場面を設けました。これらの工夫が功を奏し、会場にいる大勢の参加者は、シンポジストと一緒に具体的な授業改善について考えることができました。生徒の思考力を高める研究に関わっていると、指導者である教員自身に「柔軟な思考力」が要求されていることを痛感することが多々あります。今回のシンポジウムは、私たち本校教員を含めた参加者にとって、自らの「柔軟な思考力」を高めるうえで大いに刺激になったのではないかと考えています。

今、教員には「学び続ける力」が求められています。複雑化し多様化した教育課題に対応するためには、教員が自身の指導力向上に努めなければならないのは当然です。加えて、教員にとってもう一つの大切な使命として、子ども達に最も身近な大人の1人として、主体的に学ぶ姿、学ぶことの楽しさを伝えることも忘れてはなりません。附属学校である本校は、今後も地域の教育拠点として先進的な教育に取り組み成果を発信するという使命を果たすとともに、教員の学びの拠点として他校の先生方とともに学び合う場や機会を提供する必要があると考えております。このことに関して、本校では教育研究協議会とは別に、県内公立学校の先生方が各教科の公開授業や研究協議に参加いただける機会を設けております。

研究紀要「いとなみ」は、教育研究協議会等の機会に先生方から頂戴した御指導並びに御助言を踏まえて、私たちなりに本年度の実践を整理し、その成果と課題を考察したものです。一人でも多くの方々に御一読いただき、忌憚のないご意見、御教示をいただければ幸いと存じます。今後も、私たち職員一同はさらに研鑽を深め、研究を進めてまいりたいと考えています。

最後になりますが、本研究の推進や教育研究協議会の開催にあたり、和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会、和歌山大学教育学部をはじめとする関係各位の皆様、そして懇切な御指導と温かい励ましを頂戴いたしました諸先生方に心よりお礼申し上げます。

平成26年3月

和歌山大学教育学部附属中学校
副校長 福田 修 武

研究同人

石福	塚田	修	互 (校長)				
			武 (副校長)				
辻坂上山楠穂谷新矢辻林樋寺飯溝村吉流	村田原口刈口谷野本上中村渕中田川	奈麻一康一英雅充佳秀督万浩俊里真鎌	美紀弥平樹淳治紀博紀彦夫美晃二菜理語	一川廣植高羽三雜塩釣神	色嶋井西瀬山木賀崎本	秀徑佐仁麻真敏夕修享由	之代子美子弓治介司子山本
				Edw	Edward	Karagianis	

平成 24 年 度 転 出

柏栗芝坂中	原本口村	昌大智正	卓彦也子樹	松宮竹	場田内	浩陽正	一平和
-------	------	------	-------	-----	-----	-----	-----